

「小児がん」



徳島大学病院小児科講師

わたなべひろあき

渡辺浩良氏

「がん」は本質的には大人の病気で、「小児がん」は「がん」全体の一パーセントにも満たないぐらいまれなものです。日本国内で「小児がん」と診断されるのは、年間に二千〜二千五百人です。「小児がん」は、白血病や脳腫瘍などが多いのが特徴で、抗がん剤などの治療が効きやすく、目覚ましい進歩もあって、七〜八割は、病気を克服し、生存できるようになりました。生存できるようになったが故に、長い時間が経過した後に生じる「晩期障害」が問題視されています。できるだけ「晩期障害」の少ない治療を目指すことは我々に課せられた使命ですが、適切に「晩期障害」に対応するためには、各種専門家の協力が必要であり、継続してフォローアップを受けることをお勧めします。



 徳島大学病院がん診療連携センター
お問い合わせ がん診療連携センター：Tel.088-633-7312

徳島がん対策センター
お問い合わせ 相談窓口：Tel.088-633-9438